

# 委員会調査(研修)報告書

NO.

令和7年12月1日

胎内市議会議長  
八幡元弘様

(報告者) まちづくり常任委員会  
委員長 増子達也

まちづくり常任委員会閉会中所管事務調査 について、  
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日時	自 令和7年11月25日 至 令和7年11月25日 泊 日 ( 日間)	調査・研修 場所	1、無名橋 164-1 2、胎内スキー場
調査・研修 事項	1. 無名橋 164-1 災害復旧工事 2. 胎内スキー場小倉沢ゲレンデ 9月の大雨被害状況及び工事内容		
調査・研修 出席者(参加者)	議員：増子達也、丸山孝博、渡辺宏行、天木義人、渡辺秀敏、 森本将司、坂上隆夫 事務局：高橋知也参事		
相手方(対応者)	1. 無名橋 164-1 羽田野課長、長谷川参事、松田主任 2. 胎内スキー場 増子課長、斉藤参事		

## 調査の結果または概要

### 1. 無名橋 164－1（橋長 6.6m 全幅 3.82m 幅員 2.62m）

令和 4 年 8 月の大雨により被災した無名橋 164－1 は橋台が流失し以降通行止めとなった。軟弱地盤が両岸にあり、支持層までに到達させるため 11m の杭（直径 50cm）を計 5 本打たなければならず、住宅密集地のため低振動・低騒音の工法による工事を行ったため、総工費 1 億 2 千万円、復旧までに 3 年以上かかる難工事となった。

災害復旧のため（原型復旧の原則）、大きな橋に変更することができず、以前と幅も長さも変わらず小さい橋となっている。高さは現行法により旧橋梁よりも高い場所に架けてあった。

令和 6 年末に旧橋を撤去、橋梁本体は令和 7 年 10 月 29 日に作業を終え、新しい橋は近隣の町内住民からの要望で「あさひばし」と命名された。

総工事費 1 億 2 千万円もかかる規模の橋には見えなかったが、11m の杭が 5 本入っていることや、狭い道路なのでコストがかさんだこと、物価高騰により当初よりも費用がかさんだ事などの説明を受け納得した。

### 2. 胎内スキー場小倉沢ゲレンデ

9/8 と 9/18 の大雨により小倉沢ゲレンデに土砂が流入。ゲレンデ改修工事の補正予算が第 3 回定例会で議決された。

小倉沢ゲレンデと水路の改修が 4,400 万円。小倉沢リフトの制御盤と運転盤の移設が 880 万円、中央ゲレンデの法面の仮復旧が 400 万円、計 5,680 万円。

ゲレンデを横断するように大きなコルゲート管が露出していたが接続部分が破損しており現在修繕中であるとの事、それ以外の工事は全て完了していた。

## 調査の所見・感想

### 1. 無名橋 164－1

中条小学校からすぐ近くの橋で、住宅も多い地域なので、住民にとっては大事な橋なのだろうと感じた。3 年以上もかかる難工事だったため、地域の方も完成を待ち望んでいたのだろう、「あさひばし」という良い名前を付けたことも完成を期待していた現れだと感じた。ガードレールも頑丈で安全性にも配慮されており、雨による路肩崩落を防止するような工夫も見られた設計になっていた。

### 2. 胎内スキー場小倉沢ゲレンデ

当時の写真を見たところ制御盤と運転盤がある小さな小屋は窓が半分以上まで土砂が埋まっており相当量の土砂が流入したのが一目で理解できた。またゲレンデの脇には沢のような水路があり結構な水量があった、この沢のような水路から土砂が流入したと思われる。沢のような水路を伝い上流のゲレンデからの土砂の流入もあるようで、今後も大雨が降る可能性は高いだろうから事前の対策を講じておく必要性を感じた。今後の経過を注視したい。